

第5回地域交流カフェのお知らせ



(写真=患者さんと共に。前列中央が高林先生)

10月18日(火)

場所：幸樹会館 2階さんしょうリビング

○13:30～14:30

お話 「病気があっても、
障害があっても、
旅行で人生を豊かに」

講師：高林克比己先生（三和病院）

○14:30～15:30 交流カフェ



新入職員紹介

【介護職員 河本望】

初めまして。前職は保育園の送迎ステーションのバスの添乗スタッフをしていました。映画鑑賞と演劇鑑賞、写真撮影、写真集を見ること、本を読むことも好きです。いろいろな趣味を増やしたいです。私は高校生のころに介護の勉強はしていましたが、現場は初めてで、わからないことばかりですが、一日一日少しずつ学んでいきたいです。



【介護職員 野中智章】

この度、ご縁があり幸樹会の一員にさせていただきました。介護職は初めてで、まだまだ未熟者ですが、皆様との出会いを大切に、日々勉強という姿勢で、初心を忘れず、前職の子供と関わる仕事の経験を少しでも活かして頑張りたいと思います。



【介護職員・ケアマネジャー 原伸子】

9月から幸樹会に入職しました。それまでは、柏市の地域包括支援センターで要支援の方のケアマネをさせていただいてきました。まだまだ慣れないことばかりで、よくあたふたしていますが、お一人お一人が喜んでいただけますように誠実を心掛けていきたいです。



【介護職員・ケアマネジャー 仲田三郎】

介護職としては現在、約6年半で、介護福祉士・介護支援専門員です。以前は、東京都江戸川区の有料老人ホームでヘルパーとして勤務しておりました。まだまだ介護についての知識は少なく、未熟なものがあります。皆様に教えていただきながら勉強いたしますので、これからよろしくお願いたします。



【介護職員 小原時子】

ご縁があり、9月12日より、幸樹会にお仲間入りさせていただきました。人とお話するのが大好きで、利用者さんに寄り添いながら、自分も成長していきたいと思っております。これからどうぞよろしくお願いたします。



三陸山田町やまだ共生作業所訪問記

復興いまだ…の町で、 一手にリサイクル事業を担う



毎年恒例になっている岩手県山田町復興支援訪問に9月24日・25日と行ってきました。目的は山田町の障害者就労支援施設「やまだ共生作業所」訪問と、山田の漁民組合の方の船で釣りをすることです。幸樹会からはケアマネジャーの岡本健吾さん・介護職の加藤義幸さん・中野の3人が参加しました。

他法人の皆さんとともに、計6名の旅。新花巻でレンタカーを借り、民話の里遠野を経て、大地震大津波で大きな人的・建物被害を受けた三陸沿岸の釜石、鶴住居、大槌、吉里吉里を通って、山田町へ。



私は、3回目の山田訪問。最初の時は、震災から1年3か月後、山田湾いっぱい広がっていたというカキ・ホタテの養殖筏が全て流され、堤防が破壊され、海は深い碧さをたたえて静まり返っていました。津波が通り抜けた跡がはっきりとわかる鉄骨だけが残る建物、川を逆流した津波が周りを破壊しながら駆け上って行った兩岸の荒れ果てた姿、大量に積み上げられた瓦礫の山…。被災者の皆さんの悲しみや苦しみがどれほどのものだろうと考えると胸が痛く、悲しくなったのを覚えています。

実は、加藤さんは前職で、震災直後の1週間後に瓦礫の撤去等で山田町の支援に携わったそうです。車窓からの風景に、「ああ、このあたりにも来ました」、「うん、うん」と、声に出して記憶を確認していました。

人々の努力で山田湾には再び養殖筏が広がり、従来の2倍ぐらゐの高さの垂直堤防が部分的に造られ、盛土と新しい道路建設が進行中ですが、新しい建物は疎らです。津波被害のモニュメントのように、わずかに残った壁と歪んだ鉄骨だけの建物が残っています。

やまだ共生作業所に着くと、土曜午後なので職員はおらず、庭にはリサイクル事業用の車が10数台ずらり並んでいます。その車の陰から理事長の佐藤照彦さんが顔をだしました。「ずいぶん車が増えましたね」

定期勉強会

●前回報告 9月16日(金)実施

テーマ「徳永進『在宅ホスピスノート』から」

助言者 武井幸穂氏

【参加者感想】

職員からも訪問看護や訪問介護での看取りのお話が出て、共感するがところたくさんあるようでした。徳永さんの本は、在宅療養を人に伝えるときにとてもわかりやすく、文章としても学ぶところが大きいと思いました。

徳永さんは、人々は「総合病院」などの「カリスマ性」に頼ることで何かの形の安心は得られる。しかし、在宅で最後まで過ごしてもらえるためには、カリスマ性の対極に位置する「X性」によって立ち向かうしかない。その「X性」とは、「素人性、ていねい性、親近性、技術の信頼性、即対応性、ブリコラージュ（手作り）性、臨機応変性」と述べています。中野さんから「幸樹会は、X性でいきます」との決意表明がありました。参加者13名で、今回も5名の地域の方が参加してくださいました。またお待ちしております。

●次回学習会予定

日時：10月21日(金) 18:30~19:30

テーマ：宮崎和加子『認知症の人の歴史を学びませんか』から

* 場所：幸樹会館2階 * 参加自由

ホームページ・ブログ

- 幸樹会ホームページ <http://www.kouju-kai.or.jp/>
- ゆずブログ <http://ameblo.jp/yuzu-kouzyukai/>
- からたち薬局 <http://ameblo.jp/karatachi-p/>
- あんず訪問看護ステーション <http://ameblo.jp/anzu-kouju-kai/>

一籍にはたらしませんか！？

看護師・介護職員の方々、お待ちしております☆

連絡先 一般社団法人幸樹会本部 中野三代子

住所：千葉県松戸市河原塚 411-1

TEL : 047-701-7550

E-mail : miyoko-nakano@kouju-kai.or.jp

編集後記

さんしょうも含め、日々のケア技術向上のために、今まで学習会で学んできたICFの活用やスタッフ同士で、行ったケアの振り返りと次のケアを導く話し合いが大切だと感じています。スタッフ間で活発な意見が飛び交い、継続性のあるケアを行っていけるようみんなが高めあっていけたらと思います。最後までお読みいただきありがとうございました。(奥村万里子)

と話しかけると、「いやあ、1~2台は減っているんだよ」と。やまだ共生作業所の主な事業は、ダンボール・新聞紙・雑誌・空き缶・瓶・鉄類を回収、仕分けし、業者に引き取ってもらうリサイクル事業です。震災前は町内の半分程度だったそうですが、震災後は1.9万人から1.6万人に減少した町内全域のリサイクル事業を一手に引き受け、町民の生活を支えています。毎回20~40人の高齢者・障害者などが参加する「お茶っこの会」は、百数十回を数えています。復興住宅ができてつありますが、入居率は低いそうです。復興住宅は、家賃が5.5万円ぐらいで、年金が6万円程度の人が入居したら生活できないということで、多数の人々が仮設住宅で不自由な生活と将来不安を抱えて暮らし続けているのです。こうした人々に、国の政治・財政の支援は届いていません。また、止まったままのJR山田線等交通事情が悪化するなかで、やまだ共生作業所は、NPO法人の助成を受けて、高齢者・障害者の通院・買い物等の無料移送サービスを行い、多くの人々から喜ばれてきました。その助成継続が困難になるということで、行政に助成を要請しているとのこと。私たちもわずかばかりではありますが、募金を手渡してきました。今後も支援を続けていきたいと思ひます。

さて翌日は、魚民組合員さんの船で山田湾の隣の船越湾でヒラメ釣りです。釣果は…、参加した全員が釣れてオデコ無し、船中ヒラメ15枚。大物アイナメを釣った人もいて楽しく盛り上がりました。ヒラメは、



岡本さん3枚、加藤さん3枚、中野1枚(小)でした。

左の写真はヒラメ釣りではなく、山田へ行く

途中、遠野の河童淵できゅうりを餌に河童を釣っている岡本(手前)・加藤(後)さんです。こちらは姿を見ることができませんでした。【中野三代子】

幸樹会基金募集中

幸樹会は、基金制度をもつ非営利型一般社団法人です。在宅ケア事業の発展と法人の財政基盤を健全なものにしていくための基金を募集しています。

基金は、1口1万円(何口でも可)。協同組合や生協の出資金制度と共通で、基金は法人の自己資本となります。条件を満たした時には返済をいたします。お問い合わせは、幸樹会本部までお願いいたします。